

子どもの育ちとおもちゃ

著者	柿田 友広
雑誌名	真実心
巻	38
ページ	127-150
発行年	2017-03-10
URL	http://id.nii.ac.jp/1108/00000836/

子どもの育ちとおもちゃ

柿田友広

みなさん、こんにちは。自己紹介代わりに、この積み木を紹介します。これは、ハニカムという積み木です。ハニカムは蜂の巣のことです。蜂の巣のように六角形がいくつも繋がっているような。見えますか？　こういうふうに積むと、正三角形になります。じゃあ、こういうふうに積むと、二等辺三角形になります。これは富士山に見えませんか？　富士山は先の所へ行くと急なんですけど……というわけで、今日は富士山に見える静岡県からやってきました柿田です。よろしく願います。

さっきご紹介に預かりましたけど、子どもの本とおもちゃのお店をやっています。これが店内です。おもちゃと言っても電動のものはないし、キャラクターのものもないので、地味なものばかり置いてあるんですけど、西洋でこういうおもちゃは教育玩具というジャンルに入ります。保育とか、幼児教育で使えるおもちゃもあります。世の中のには、お

もちゃやというコンピュータゲームが主流になりましたけど、あまりにもそういうものが多すぎてしまつて、最近は反動でこういうアナログなおもちゃも見直されてきています。本もたくさん置いてあります。人形劇の人形が置いてあります。プレイルームが横にありまして、これはドイツの幼稚園を何回も見学して、そういう場所があるといいなと思つて作りました。これは、私です(笑い)。マリオネットで作つたミニ柿田なんですけど(ドイツ・ミュンヘンの作家に作つてもらつたというマリオネットが画面に写る)。

まずは積み木の話から

じゃあ、このハニカムという積み木でもう少し遊んでみますね。こんなふうになると、また正三角形になります。そして、こうすると、大きい正三角形と小さい正三角形。じゃあ、この大きい正三角形の上に小さい正三角形は乗るでしょうか。乗りますね。じゃあ、小さい正三角形の上に大きい正三角形は乗るでしょうか。これは、なかなか乗らないんですよ。じゃあ、ちよつと工夫してみようかな、ということ、ここをななめにします。そして、このように置きます。そして、これを取っちゃいます。そうすると、乗りました。

子どもの育ちとおもちゃ

小さい正三角形の上に大きい正三角形が乗りますね。これはドイツからやってきている積み木です。おそらくヨーロッパのブナの木を使っているんですが、この積み木で木を作ってみようかな。こういうふうになると、ここで手を離すと崩れちゃいます。でも、ここはどうでしょうか。まだ崩れますね。ここではどうでしょうか。ここで立ちました。バランスを取りましたね。あと二つ残っているの、適当に積んじゃいます。これでいいかな。こんな感じで。ブナの木の積み木で作りました。というわけで、これは積み木なんだけど、みなさんがよくご存じの積み木とちよつと違うような気がしません？

ごっこの積み木

みなさんがご存じの積み木は、こういう積み木かな。白木の積み木ですね。主にレンガ型の積み木で、たまに色が付いたものもあります。どんなふうに遊ぶかという、これは保育園で子どもたちが野球場を作ったところです。こんなふうに作れるんです。これを私たちは、「ごっこの積み木」と呼んでいます。これはドイツの幼稚園で撮った写真です。あスペースで積み木遊びをするんですが、工事の車なんかと一緒に、この子たちは何かを

やっています。白木の積み木がたくさん置いてあります。（こういうのを私たちは「ごっこ積み木」と呼んでいます。）

これは、ドイツのフリーベル美術館へ、みんなでツアーを組んで行った時です。これが入口です。フリードリッヒ・フリーベルは、幼児教育を最初に考えた人です。計算するとか、文字を習うといった、小学校からの教育とは違う、遊びを中心とした教育が幼児期には必要だと言って、日本語で恩物（おんぶつ）と訳される、おもちゃの元祖をたくさん考えた人です。そういうもので遊んだり、植物を育てたり。子どもを育てるといえるのは、植物を丁寧に育てるように育てなくちゃいけないと、*Kindergarten* を作りました。日本語では幼稚園になっちゃいましたけど、子ども園ですね。これはフリーベルさんのコンセプトです。

数学的な積み木

実は、積み木には三種類あります。こうした「ごっこ積み木」以外にさき程見せたようなハニカムとか、これは、ネフスピールという積み木なんですけど、数学的な積み木と呼んでいます。蝶ネクタイのような形のもが一六個入っているんですけど、だんだん広が

子どもの育ちとおもちゃ

っていくとか、あるいはその逆で、だんだん狭まっていくとか、こんなふうには積めるんですね。たとえば、この積み木はこうやって積むことは普通は無理ですよ。だけど、ちょっと考えて、こうして、こうして…それで、ここに置くと、これで積みますね。このように積みたいなんて思って工夫したら積めました。この積み木で他にどんなことができるかというと、三重の塔を作ります。これが、まず一重の塔です。次が二重の塔です。そして三重の塔です。できるでしょうか。二重の塔から怪しくなってますけど（笑い）。あ、できましたね。これは、微妙なバランスで立っているの、一個取るとどうなるかということ…、崩れちゃいます。

ということ、みなさんはお気付きだと思いますけれども、積み木で遊ぶということ、バランスを取るといことです。微調整をしないとバランスは取れないので、手先の微細な動きができるようになります。そういう意味があるんです。じゃあ、今度は、どうしようかな。こんなこともできます。これは何を作っていると思いますか。段差があるの、このへんにしときますけど、これで、ドミノ倒しですね。こういう遊びをします。積み木は積むだけじゃないんですね。

このネフスピールという積み木は、スイス人のクルト・ネフさんという人が作ったんで

す。前にこのネフさんにインタビューをしたことがあるんですが、「フレーベルの影響を受けています」とおっしゃっていました。まあ、ヨーロッパの人は多かれ少なかれ影響は受けていると思いますけどね。ネフさんは元は家具のマイスターだったんですけど、このネフスピールという積み木を家具と一緒に置いておいたら、家具より積み木の方が人気が出ちゃいました、その後、おもちゃ屋に転身した人です。

もう一つ、これはアングレーラという積み木です。これは、L字型の積み木が大きいのか小さいのまでいっぱい入っています。たとえば、立てて：これだけでもキレイですね。この積み木にはジョイントという付属品があって、これを使うとバランスが取れるようになるんです。こちらに、二番目に大きい積み木を乗せますね。そして、こちらに三番目に大きい積み木を乗せますね。これだと、こっちの方が大きいから、こっちの方に倒れちゃうので、今度は大きいのをこちらに乗せて、こちらに次に大きいのを乗せます。こうすると、手を離してもバランスが取れます。このキューブを足し算していくと、右と左が同じなんです。そして、ここにも何か積みたいなど、またジョイントを使って、こうして、こうすると、これは何に見えますか。カタツムリに見えるという人もいますが、みなさんはカタツムリに見えますか。ただの積み木にしか見えないと悲しいですけどね。だんだん

子どもの育ちとおもちゃ

大人になってくると、ただの積み木にしか見えなくなっちゃいます。

ここで、問題を出しましょうか。こういうふうに積んでいきます。小さいのから順番に……。これは、何番目を取ると壊れてしまうでしょうか。オレンジぐらいだったら大丈夫だと思う人？ オレンジでも壊れちゃうと思う人？ 黄色で壊れるよって思う人？ ちよつと手が挙がりましたね。緑を取ると壊れちゃうと思う人？ この濃い緑は絶対に壊れますよね。じゃあ、ちよつとやってみますね。これは大丈夫です。これも大丈夫、…大丈夫。これはどうでしょう。ここはどうでしょうか。まだ大丈夫です。これはどうでしょうか。あ、ここで終わっちゃいましたね。正解の人はいましたでしょうか。

さて、さらに問題です。こうやって今度は逆に積んでいきます。で、全部積みました。この真ん中の一番小さいキューブを取るとどうなるでしょうか。どう思いますか。想像だけでいいんですけど。それがみなさんの思った通りかどうか。…こうなります。ね、おもしろいですよね。

じゃあ、最後にもう一つだけ問題です。このジョイントを使って、こういうふうに立てたいと思いました。立ちませんよね。立たせるためには、どうするかというと、ここを押さえてればいいわけだから、こういうふうに重くすればいいんじゃないかということ、全

部使って、一番上まで乗せたら立つと思う人？ ありがとうございます。信頼してくれてますね、私を。じゃ、手を離しますね。立ちましたね（笑い）。あ、立ってないんですよ、残念ながら。微妙にこちらに傾いちゃってます。だけど、ちょっと魔法をかけますね。何かちょっとだけ変わったんですけど、これで立つと思う人？ あ、危ない。厳しいですね。少々お待ちください。こうかな。こうかな。これは、机がなめなんですね。上手くいかないことも、たまにはあるんです。こういう場合は、逆さにするとうなるか。これどうかな。今日はうまくいかないかもしれません。壊れちゃいましたね。残念。というわけで、ちょっとだけ机がなめになってるせいで今日は立たなかったんですが、そんなふうに、積み木はバランスを要求します。なので、ちょっとだけ重心をずらすとか、そういうことをしていくと、立ったりします。

とういうわけで、数学的な積み木の話が長くなりましたけど、他に数学的な積み木というと、これはセラです。こんなふうに組めます。青い、赤いバージョンもあります。これはキュービックスという積み木です。これはダイヤモンドという積み木なんですけど、顔みたいなのができたり、いろんな色があります。これはさつき見せたネフスピールですね。これはリグノという積み木です。プードルみたいなのができたり、『三匹のやぎの

子どもの育ちとおもちゃ

がらがらどん』みたいなのができたり、吊り橋ができたりね。いろんな形ができます。これはアングラーという積み木です。いろんな組み方ができます。これはハニカムですね。こういったものが数学的な積み木です。

玉の道を作る積み木

積み木には三種類あると言いましたが、もう一つ、ピタゴラスイッチみたいな積み木があるんです。ビー玉を転がす積み木のこと、クゴリーノとかキュボロという積み木がそうです。たくさんでこんなふうに積めるんです。そして、ビー玉がころがる道を作っていきます。他にも組み立てクーゲルバーンとか、スカリーノとかが道を作る積み木です。キュボロというのをさつき見せましたが、これは非常におもしろい積み木で、すごく考えないと道ができないんです。年中さんぐらいですと、見えているところではしか道ができないんだけど、年長さんぐらいで、大好きな子なんかは、トンネルをくぐって、また出て……ということができません。たとえば、今日は六個だけ持ってきたんですけど、六個だけを使ってどんな組み方ができるかというと、こんなふうに……。ここから入れるとここから出て来

ちやいますね。見えるところを通って出てきます。ところが、一番こちら側のを九〇度回転させると、今度は、こっちから出てきます。もう一回やってみますね。こちらから入ると、こんなふうだね。これがキュボロです。ピタゴラスイッチみたいな、玉の道を作る積み木です。今日はごっこ遊びをする積み木と、数学的な積み木と、玉の道を作る積み木と、三種類あるよということをぜひ覚えておいてください。そして、これは構成遊びというジャンルに入ります。その中には積み木もあるんですが、他には、レゴみたいな、繋げて立体を作るものもあります。さらに平面で構成する遊びもありますよね。

子どもは絵本の絵を読んでいる

今日は、あんまり話をする時間がないので、本当に自分が大好きなものだけを紹介しようかなと思いつきながらやってきました。私は最初子どもの本専門の本屋さんからはじめて、だんだんおもちゃも置くようになったんですが、初期の頃、非常に影響を受けた本の中に、『しろくまちゃんほっとけーき』という絵本があるので、ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんけど、ちょっと紹介します。

子どもの育ちとおもちゃ

（『しろくまちゃんのほっとけーき』わかやまけん作、こぐま社刊を読みはじめる。）

これは、みなさんもわかるかもしれませんが、このページが大好きなんです。「ぼたん、どろどろ……」ってやるでしょ。そして、次のページに行つて、「できた できた ほかの ほっとけーき」で、次のページに行こうかなと思うと、子どもは、「ここ、もういっかいよんで」って言うんです。「そう？」なんて言つて「ぼたん、どろどろ……」で、また次のページに行こうかなと思うと、「もういっかいよんで」って言うんですよ。何でだと思いますか。ここに、ホットケーキが四枚あるんですよ。だから、子どもはここを四回読んでほしいんです。四回読むと、ホットケーキが四枚焼けて、このページになるんです。で、次のページに行けるんです。そういう、子どものリアリティがあるんですよ。子どもの感受性です。こぐま社の社長の佐藤さんが、静岡の図書館に講演に来たことがあるんですけど、「子どもは絵を読んでいるんですよ」って言ったんです。それが、私の絵本の見方の一つの原点になりました。というわけで、私にとって、この絵本は本当に忘れられない一冊なんです。

では、ここでもう一冊、私の大好きな絵本を紹介します。『かいじゅうたちのいるところ

ろ』です。みなさんは子どもになったつもりで、字を読まなくていいので、絵を読んでくださいね。何かを発見すると思います。

〔『かいじゅうたちのいるところ』モーリス・センダック作、じんぐうてるお訳、富山房刊を読みはじめる。〕

みなさんは、一生懸命、絵を読んでくれたと思いますが、何か気がつきましたか？ まず、この画面が小さいですよ。ここにカーテンみたいな、シートみたいなのがつり下げているんです。これをちよつと覚えておいてください。そして、ページをめくると、だんだん画面が大きくなってきます。全部使ったかなと思うと、今度は、横にはみ出していきます。横に全部来たかなと思つたら、上から下へ。最後に、真ん中で全部を使って絵が描いてあります。言葉もなくなりません。これが一体、何を意味しているかというと、おそらくマックスがかいじゅうになりきつちやつて、ファンタジーの世界へ入り込んでいくというのを画面の大きさで表しているんだと思います。そして、さっきのシートみたいなのが、これですよ。現実はあるというシートみたいなものなんだけど、空想の世界では王様

子どもの育ちとおもちゃ

のテントになっています。で、日頃からマックスはかいじゅうが好きだったんだということも、こういう壁にある絵でわかります。

次に、窓の外を見てみると、三日月の反対のような月があるんですが、ここにもあります、ここにもあります。ところが、一番クライマックスのシーンになると、満月になっています。ファンタジーの世界では満月になってるってわかるんですけど、じゃあ、帰ってきたら、三日月の反対のような月に戻るのかなと思うと、これが戻ってないっていう。あれ？みたいなね。ある学者は「これはマックスの心の満足度を表している」って言うんです。ファンタジーに入り込んで行って、心が満足して帰ってくる。心が成長した非常に満足した状態を表しているのかな、と言っていている人がいましたけどね。

考えてみると、絵本に限らず、『指輪物語』とか『ナルニア国物語』とか、ああいうファンタジーは、読んだ後に心が成長するというのが、文学の持っている役割じゃないかなと思います。たかが絵本なだけで、ちゃんとそういうことをやっているのが、すごいなと思うんですね。これは私が大好きな絵本です。本当はもう一冊紹介しようと思ったんですけど、時間の都合で、また、おもちゃに戻ります。

世話遊びからごっこ遊びへ

先ほどは構成遊びの話をしたんですけれども、次は、ごっこ遊びの話をしようかと思えます。これは、ベビーカーと、ロッキングベッドと、ベビーちゃんですが、だいたい一歳三ヶ月〜一歳半ぐらいになると、こういう道具があるとお世話をするんです。オーガニックコットンのベビーもいます。それから、ままごとのキッチンもあります。こういう環境ができていると、たいてい、ままごとが始まりますよね。お世話遊びと、ままごとは、一歳、二歳の子は大好きです。ここに出てきた人形は抱き人形なんですが、友だちの人形ですよ。もしくは、自分の分身のような人形です。心との対話ができるような人形です。お母さんに言うと怒られるけど、この、友だち、分身に話しても怒られないから、本当のことはこの人形に話すとかね、そういうことを子どもはするんです。ただ、二歳ぐらいまでは、こういう人形を怖がるんですよ。人格があるものですから、怖がる子もいます。そして、こういう人形は顔が無表情であることが大切です。なぜかという、自分が辛い時、悲しい時は、悲しい顔になってほしいからです。楽しい時は、楽しい顔になってほし

子どもの育ちとおもちゃ

いからです。無表情だとそれができるんですね。

これは、食器なんですけど、ご飯の具は、お手玉とか、はなはじきとか、チェーンリングでできています。これは、色のついた抽象的なものが大変活躍します。にんじんのおもちゃは、お料理した後もにんじんなので、想像力が上手くないかわけです。だけど、こういうお手玉なんかだと、そこが想像力で、にんじんだったものが、にんじんの料理になっていくことができます。では、にんじんはダメなのかというと、お店やさんごっこだったり活躍しますよね。

これは、ドライビングシートというおもちゃです。運転手さんごっことか、バスごっこ、タクシーごっこ、汽車ごっこができます。

最初は、世話遊びと、ままごとだったのが、年齢が高くなってくると社会に目を向けてくるので、お医者さんごっことか、大工さんごっことか、コックさんとか、ウエイトレスさん…、というように変わっていきます。男の子だと、おまわりさんごっことか、消防士さんごっことか。こういう道具を用意しておく、やれるようになります。

これが「ごっこ遊び」です。「ごっこ」は、全てを発達させるとい言葉があります。「うちの子、ごっこばかりしてるんですけど…」「構成遊びもさせたいんですけど…」っ

ていうお母さんがいたので、「ごっこ遊びの中に数学的な遊びを加えたらどうですか」って私は提案したんです。例えば、お店やさんごっこをして、レジを置けば、計算というのが入りますよね。何となくやってる時は、一〇〇〇円出すと、おつりがまた一〇〇〇円だったりするんですけど、ちょっとコインを作ってあげて、「これは〇〇円だね」って言うってみると、五歳ぐらいになれば、ちゃんとおつりを計算して返してくるようになります。そんなことをやったらどうですかって言ったなら、子どもはすごく乗ってきたっていうんですね。それは、幼児期に計算を教えよう、文字を教えよう、ということじゃないんです。フレールさんは、そういうことをしてはいけないみたいなことを言ってきました。なぜかというと、幼児期は、神と出逢うとか、宇宙を知るとか、そういう時期だからだと言っています。だから、遊ぶことが大切だということです。遊びの中で何かを発見する。計算は、遊びをもっと豊かにするためにしたんだ、と思っただければいいと思います。

ルール遊び

構成遊びの次に、ごっこ遊びの話をしたんですが、次はゲームです。わわわれは「ルー

子どもの育ちとおもちゃ

ル遊び」という言い方をします。これは、『虹色のへび』というアナログのゲームです。みんな裏返しておいて、順番に一枚ずつ表にしていきます。そして場に並べていくんですけど、色が合ったら繋げていきます。引いた子がやるんじゃないかと、みんなで「これ、つながるね」って意見を言いながら繋げていきます。あと、頭が出ればこのへびは完成っていう時に、頭を出した子がいると、その子がこの一匹を全部もらえます。最後に何枚カードを持ってたかを競うゲームなんです。これは虹色なので、何色にも繋がるというジョーカーですね。シンプルなゲームで、色を認識するのは、だいたい二歳と言われていますので、ちよつと手伝えば二〜三歳でもできるゲームです。

これは、『こぶたのかけっこ』というゲームです。実際に持ってきました。これは、道が付いていて、この道をまず子どもが作れます。裏も使えます。そして、コマがぶたになっっています。たとえば、三人でやるとして、こつちがスタートで、こつちがゴールだとします。ダイスを振ったら2が出ました。青が最初です。次の黄色の子もまた2が出ました。そうすると、横に並ばないで、おんぶをします。そして、次の赤の子は1が出たということにしますね。でも、1はもう一回できるんですよ。で、もう一回、1が出ました。そうすると、進んでもいいんですけど、止まってもいいんです。これは戦略です。次に青

の番になりました。青は上のぶたを全部連れて行かないといけません。なので、3が出たら、全員3つ進むことができます。だから、赤が、1が出たけどここで止まりました、というのはいさな理由からです。黄色は2を出しました、とすると、上の子だけを連れて行きます。そして、赤の番になりました。いよいよ、一人でどんどん行っちゃうわけですよ。という、おんぶをするというおもしろいゲームで大変人気があります。うちのお店では、これが一〇年ぐらいベストセラーです。中学生とか高校生でもおもしろいゲームです。

今、アナログのゲームがすごく流行っているのをご存じですか。中学生、高校生、大学生、大人まで、コンピュータゲームをやってきた子にもアナログゲームが流行っているんです。三七年もやっている百町森というお店では、今までだいたい小学校二、三年で、来なくなっちゃう子が多かったです。最近はずっと繋がっています。八、九歳になるとできる、頭を使うゲームがあるので、子どもたちがずっと来るようになりました。

それから、絵合わせをする神経衰弱のゲームがあります。こういうふうにかくさんカードが入っているんですが、たとえば、りんごがあると思うと、りんごの虫食いもいます。りんごの木もあります。だから、トランプでやるよりおもしろいんですね。メモリーとい

子どもの育ちとおもちゃ

うのが実は神経衰弱のことなんです。これをドイツの幼稚園なんかに行くと、小学校に入るための準備ということ、やっています。四歳、五歳ぐらいからやるんですけど、絵合わせは、左右の認知を発達させるということ、文字を習う準備になるということなんです。ドイツの幼稚園で、「小学校へ入る準備として何かしてますか」と私が質問をすると、「はい、してます」って簡単に言うんですが、「何をしますか」というと、こういうふうには、遊びの中にも学習の基礎があるんだよということと、「もう一つ大事なのは、人の話が聞けるようにしています」ということでした。すごいですよ。そういうことに自信を持っています。室内で子どもたちがものすごく静かにしているのも、「静かにしなさい」と言うから静かになるわけじゃなくて、何か夢中になれるもの、おもしろいものが置いてあるからということなんです。いつでも室内では何かテーマを持って取り組んでいる。そういう環境が作られているということ。そして、静かな環境の中では大人の静かに話す言葉を子どもたちはよく聞くんです。

今年、百町森の主催で「保育セミナー」をやったんですが、浜松の大学の先生がおもしろい実験をされたんです。大学付属の保育園に、ままごととか積み木のコーナーがあるんですが、ある時、登園してくる前に、とっぱらっちゃって、保育室を何も無い空間にしち

やったんです。子どもたちが入ってきて、どういう行動を取るのかという実験をしたんですが、子どもたちは、どんなことをしたと思いますか。しばらくしたら、戦いごっこなんかをはじめちゃった子がいたんですって。何もテーマがないところだと、戦いごっこがはじまっちゃうということ、環境が整っているか、整っていないか、という一つの目安になるんじゃないかという話をしてたんです。

今、私が言っているのは、もし、今後、みなさんが幼児教育に携わるようでしたら、環境を整えてあげるといことは大事だということです。そして、その中でおもちゃは大活躍をするんですけど、どういうおもちゃを置けばいいのかという時に、「構成遊び」や、「ごっこ遊び」や、「ルール遊び」があるんですよ、ということなんです。

これは、二歳でもできる釣りのゲームなんですけど、色が分かると、赤い魚を釣るとかね、そういうゲームです。

メモリーには他にもいろんな種類があります。『テイメモリー』は、みんな、くまさんかと思ったら、表にすると、ビスケットや、チョコレートや、グミもいるというね、このへんが楽しいです。これは、『ビークル・メモリー』と言って、自動車とか、働く車ですね。車大好きな子なんかだと、こういうのを一緒にやるといいですよ。先程言ったよ

子どもの育ちとおもちゃ

うに文字を習う準備をしていることにもなります。ドイツの幼稚園、保育園の先生は、幼児期に文字を教えると罰金を取られます。そういうことをしてはいけないルールになっています。(でも、遊びの中で文字を習う準備はしているわけですね。)

これは『ハリガリ』というゲームです。順番に表に出していくんですけど、場の中に、たとえば、いちごのマークが足して五になると、真ん中のペルをチーンと鳴らすというゲームです。これは足し算です。教えようというわけじゃないけど、こういうゲームの中で、ちよつとずつ計算が出てくるということですね。(足して五になる) 足し算は、小学校に入って十進法を習う時の基礎になります。

これは『ザーガランド』というゲームで、ここがスタートで、ここがゴールです。このカードが、たとえば、シンデレラだったりすると、シンデレラの靴がこの木の下のどこかにあるので、それを見つけて、ここまで行って、最初に到達して、「シンデレラの靴はこの木の下にあるよ」と言えた子が、このカードをもらえるというゲームです。なかなか楽しいですよ。

こういったものが「ルール遊び」です。三つ言いましたよね。幼児期の遊びは、「構成遊び」と、「ごっこ遊び」と、「ルール遊び」、あと一つ、今日は四つ覚えてください。

表現する遊び

もう一つは、「表現する遊び」です。構成遊びや、いろんなジャンルにまたがる場合もあるんですけど、たとえばこれは『アイロン・ビーズ』です。パネルにビーズを並べて、最後にアイロンをかけて完成させるものです。これはビーズのひも通しです。これもそうです。これは最近、小学生に流行ったんですけど、二社ぐらいのメーカーが出しているんですが、輪ゴムでミサンガみたいなを作ります。これは、織り機です。単純なものあれば、マフラーぐらいできちゃうのがあります。年長さんぐらいになるとできる子もいますが、こういう、リリアンとか、織り機をやるためには、二歳ぐらいでひも通しをして、順番みたいなものですね。乳児期に、この遊びはどんな意味があるんだろうって思うものも、実は全部、幼児期に繋がっているということです。

そして、またここでみなさんにクイズをしようと思います。これは「平面構成遊び」なんですけど、たとえば、こんなふうになんを作ったとしますね。こんな感じかな。二歳ぐらいの子は、絵を描かせると、顔からいきなり足とか手が出ちゃうんですけど、こういう遊び

子どもの育ちとおもちゃ

をしてる子は、あ、ここに胴体があるんだな、ということがわかります。わかりやすいですよ。空間認識を発達させる構成遊びになります。だから、「なかなか、この子は絵を描かないな」と思っても、こういう遊びをしている子は、一方で絵の具やクレヨンで色遊びをしているうちに、だんだん絵を描くようになります。

ここで問題です。帽子の赤い三角形と、緑の長い足は、どっちの面積が広いでしょうか。赤い三角形だと思う人？ 緑の棒の方だと思う人？ ありがとうございます。実を言うんですけどね、これは、四角い上に三角形を置いてみると、ちょうど半分です。じゃあ、この棒はというと、青と黄色の棒を置いてみると、同じ長さなので、これを上に置いてみたらどうかというと、ちょうど四つ分になっているので、これもちょうど半分なんです。だから、問題の意地が悪かったんですけど（笑い）、同じ面積だったということです。子どもたちは、こういう構成遊びの中で、絵を描く準備もするんだけど、数学的な体験もするということにもなります。

これはリリアンですね。これはY字リリアンで、毛糸を使います。これは紐通しなんですけど、平面的なもので、ここに絵を描きます。これは、なんと、針がプラスチックで、刺繍をするものです。刺繍とか、クロスステッチができます。二歳ぐらいでこういう紐通

しとかをやってる子は、だんだんこういうものに繋がっていきます。大人が針なんか持っていると、絶対に針を持ちたがりですよ。こういうおもちゃもあります。

そろそろ、まともに入らないといけません。絵を描いたりするのにもいろんな道具があります。音楽的なものも、ライヤーとか、グロツケンとか、いろいろあります。音遊びをやっている子は、たぶん、小学校へ入ると音楽が好きな子になると思います。さっき言った、絵を描くわけじゃないけど、こういう遊び、あるいは色遊びをしている子は、小学校で絵を描くことを教えれば、きっと、絵を描くことが好きな子になるんじゃないかなと思います。幼児期にやることは、そういうことかなということです。今日いくつか持ってきたおもちゃは、私が大好きな本や、おもちゃだつて言いましたけど、もし、みなさんが「こんなおもちゃもあるんだな」と思っていただければ、将来、幼児教育に携わらない場合でも、子育てでも活躍できると思いますので、覚えていてくれたらと思います。今日は、どうも、長い間聞いていただきまして、ありがとうございます。

——二〇一六年一月二五日——